

Bunkamura・日本フィルハーモニー交響楽団
合同記者発表会

2014年4月21日 正指揮者 山田 和樹 記者発表会レポート

Bunkamuraオーチャードホールにて



写真提供: Bunkamura 撮影: 大井 成義

2014年4月21日(月)、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者・山田和樹契約延長及び、Bunkamuraオーチャードホール 新クラシック・シリーズ「山田和樹 マーラー・ツィクルス」スタートのご報告を兼ねて、Bunkamuraと合同で記者発表会を行いました。たくさんの方の音楽関係者の皆様にお集まりいただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。以下に記者発表会の内容をご報告いたします。

「山田 和樹 マーラー・ツィクルス」2015年1月～2017年6月 全9回 詳しくはホームページまたはチラシをご覧ください。

■ 日本フィル正指揮者 契約延長について

～日本が誇る日本フィル、
世界が認める日本フィルへ

高校生のとき初めて自分で演奏会のチケットを買って行ったのが、日本フィルの横浜定期の演奏会でした。それ以来いつも楽しみに数枚お財布に入れていました。

第500回定期の時に、小林研一郎先生がマーラーの第8番《千人交響曲》を指揮されて、大学2年生の私は、合唱団の一員として

歌っておりました。その打ち上げの席で、1000回定期は僕が指揮します！と宣言しました。今思えば怖いもの知らずでしたね。でもその思いは今も変わりません。

今回2年間延長することになったことで、2016年には日本フィルの創立60周年という節目と一緒に過ごすことが出来ます。日本が誇る日本フィル、世界が認める日本フィルであるように、微力ながら精一杯取り組んでいきたいと思っています。

■ Bunkamuraオーチャードホール 新クラシック・シリーズ「山田和樹マーラー・ツィクルス」について

～「それしかない」

—“オンリー”の選択が凝縮された企画

オーチャードホールさんでやるのだったら僕には、最初からマーラーしかなかったんです。会場の雰囲気や大きさ、空気というか、武満

さんとの組み合わせでプログラミングしていきたいというのもこれらの中でオンリーでした。当然オーケストラは日本フィルしかないということで。

全てそのオンリー、オンリーのものを凝縮してこのような発表ができることになりました。

～先人の方々のアイデアを
結びつけた企画

マーラー・ツィクルスというのは今の時代そんなに珍しいことではないと思いますが、僕の中では、若杉弘先生、岩城宏之先生、武満徹先生、三善晃先生、山田一雄先生、そして渡邊暁雄先生と、この6人の先人の方々のアイデアが結びついたものなんです。

例えば3年かけて3つずつ交響曲を演奏するというのは、若杉先生。マーラーの第1番をハンブルク稿という珍しい版で演奏するのも若杉先生が発信しようとしていらっしまったことです。

第2番《復活》は東京混声合唱団と武蔵野合唱団との混成、そして武満徹の《うた》シリーズという大変素敵な曲がございまして、それは東混だけで演奏して頂こうと思っています。東混にはこの4月に音楽監督にも就任いたしました。これは長らく岩城宏之先生がやってこられたものです。合唱もオーケストラも振れる指揮者に、という意味をつないでいかなければならないと思います。

また第8番のときには、栗友会合唱団と武蔵野合唱団にお願いしようと思っています。アマチュアの活動に対しても非常に熱心であったのが山田一雄先生であり、渡邊暁雄先生でした。そういう結びつきもいろいろあったらいいなど。

先ほどの「オンリー」の話に戻りますが、第3番の時は単純に、3番だから三つの音楽という、3、3というオンリーで浮かびました。4番の時も前半にやるのは《系図》しかない、5番のときもこれしかない。

～ほとんどが初挑戦の曲。

大きなハードルを自分で立てた感じ

マーラーの交響曲は3年かけて9曲やりますが、ほとんどが初挑戦です。プロの楽団では、4番以外はほとんどありません。本当に出来るかな、という大きなハードルを自分で立てたような気がしています。

未だに一番距離があるのは、6番と7番。その山を超えて8番の《千人の交響曲》まで行きますと、マーラーはオペラを書きませんでした。歌が入ること途端に楽になるイメージがあります。そして9番も非常にイメージとしては持ちやすいです。

自分としては、全てオンリーなものが集まった企画です。

～「日本から世界へ」

発信していくプロジェクトへ

さらに、「日本から世界へ」という大きなキーワードを持ったプロジェクトになればと思っています。「日本」にこだわるといえる意味では、共演者も全員日本人の方々をお願いしています。「今の時代にこそ、外国人に頼らず、日本の才能を結集して…」とは、長らく評議員、理事として日本フィルを支えてこられた故三善晃先生のお考えでもあったと聞いています。

そういったことを自分が打ち出し、やり続けていくことで、次の世代につなげればいいと思っています。

3年に渡りますが、是非皆様のご支援ご協力を頂けたらと思っています。